

5 月出荷サルビアの品種特性把握と植栽後の評価

岡澤立夫・田旗裕也
(園芸技術科)

【要 約】サルビア 19 品種の生育・開花特性を明らかにした。「レディ」シリーズはコンパクトで、「ビスタ」シリーズは株張に優れる。植栽後の開花状態を秋季に赤系品種を用い評価したところ、ほとんどの品種で 40%を超えており、長期間観賞できることが分かった。

【目 的】

最近のサルビアの品種は、節間の詰まり、分枝性に優れる。花色は赤色のほか白色、紫色などがあり、バラエティに富んでいる。さらに耐暑性が付与され、晩秋まで長期間観賞できることから夏秋花壇の品目と注目されている。そこで、5 月出荷サルビアの品種特性ならびに、わい化剤施用効果を明らかにするとともに、開花終わりに近い秋季の開花状態から植栽後の特性を評価する。

【方 法】

2012 年 2 月 27 日、市販播種用土 (TM-2) を充填した 288 穴セルトレイにサルビア 19 品種を 1 穴 1 粒播きした。3 月 21 日、本葉が 3～4 枚展開時に 9 cm ポリポットに鉢上げした。鉢上げ用土は赤土：腐葉土：ピートモス＝5：3：2 (容積比) を使用し、基肥として用土 100L あたり N:58g, P₂O₅:158g, K₂O:54g を被覆肥料、過リン酸石灰で施用した。追肥は、緩効性固形肥料 (IB 化成) および液肥 (ハイポネックス) で実施した。温度管理は、鉢上げ後は 20℃とし、その後徐々に温度を下げ、最終的には 12℃とした。

【成果の概要】

1. セルトレイに播種したところ、いずれの品種も発芽率が概ね 8 割を越えていた (表 1)。
2. 開花始めは、「フラメンコ ローズ」や「サルサ パープル」で早く、「レッド アラート」, 「レッドホット サリー」などで遅く、開花が早い品種と遅い品種で 1 週間以上開きがあった (表 2)。
3. 「レディ」シリーズは草丈が低くコンパクトだった。「ビスタ」シリーズは草丈、株張が比較的大きかった (表 3)。
4. わい化剤効果は品種で異なった。「レディ スカーレットバイカラー」ではわい化効果が小さかったが、「シズラー レッド」では大きかった (表 4)。
5. 赤色系品種を中心に、単位面積あたりにどれだけ赤色が占有しているかを調査したところ、ほとんどの品種で花の占有率が 40%を超えていた。特に「サルバドール レッド' SARED'」は 45%以上と占有率が高く、観賞期間後半でも赤色が維持された。一方、「シズラー レッド」や「レッド アラート」は占有率が 30%台と低かった (図 1)。
6. まとめ：サルビア 19 品種について生育・開花特性、わい化剤の施用効果を明らかにした。今後は、秋出荷の作型についても検討するとともに、サルビア以外の花壇苗品目についても同様に品種特性を明らかにする必要がある。

表1 供試品種名と種子発芽率の品種間差

品種番号	品種名	種苗会社名	1区(%)	2区(%)	平均(%)
1	レディ ブライトレッド	(有)東京花壇	94.1	95.1	94.6
2	レディ スカーレットバイカラー		82.3	80.6	81.4
3	シズラー レッド		84.0	95.1	89.6
4	レッド ビスタ		86.5	95.1	90.8
5	レッド アラート		95.1	97.6	96.4
6	レッドホット サリー	(株)ミヨシ	88.2	70.8	79.5
7	ビスタ レッド		97.9	96.2	97.0
8	ビスタ ホワイト		93.8	94.4	94.1
9	ビスタ パープル		100.0	98.3	99.1
10	フラメンコ レッド	タキイ種苗(株)	87.5	86.5	87.0
11	フラメンコ サーマン		94.1	95.5	94.8
12	フラメンコ ローズ		100.0	99.7	99.8
13	フラメンコ パープル		91.0	92.7	91.8
14	サルサ スカーレット	シンジエンタジャパン(株)	93.4	95.5	94.4
15	サルサ スカーレットバイカラー		84.4	90.6	87.5
16	サルサ バーガンディ		95.8	96.5	96.2
17	サルサ パープル		88.9	91.3	90.1
18	サルバドール レッド' SARED'		96.5	98.6	97.6
19	フラメックス2000		77.1	89.9	83.5

表2 開花日の品種間差

品種番号	開花始(月日)	開花中間(月日)	開花終(月日)
1	5/4	5/6	5/9
2	5/5	5/8	5/14
3	5/4	5/8	5/13
4	5/9	5/13	5/15
5	5/9	5/12	5/14
6	5/10	5/13	5/15
7	5/9	5/11	5/16
8	5/4	5/5	5/8
9	5/9	5/11	5/13
10	5/6	5/7	5/10
11	5/3	5/7	5/12
12	5/1	5/4	5/8
13	5/5	5/7	5/10
14	5/5	5/8	5/10
15	5/4	5/7	5/10
16	5/4	5/6	5/10
17	5/1	5/4	5/8
18	5/8	5/11	5/16
19	5/7	5/9	5/12

※小花が咲いた時点を開花日とした
開花中間：開花株率が50%以上

表3 生育特性の品種間差

品種番号	草丈(cm)	株張(cm)	花穂長(cm)	茎径(mm)	最大葉長(cm)	最大葉幅(cm)	最大節間長(cm)
1	18.5	22.6	9.3	5.4	7.2	5.4	1.56
2	16.4	22.3	9.1	5.2	6.6	5.1	0.96
3	24.3	24.6	9.3	5.6	8.6	6.2	2.32
4	26.9	26.9	8.9	6.8	9.6	7.9	2.72
5	27.7	26.6	8.9	6.3	9.1	7.1	2.67
6	27.0	25.6	8.4	6.1	8.6	6.6	2.62
7	26.3	26.4	9.2	6.6	9.6	7.7	2.43
8	24.6	24.8	8.6	5.7	8.8	7.5	3.07
9	25.1	25.3	9.0	6.5	8.3	6.9	2.47
10	23.8	26.7	8.9	5.6	9.0	7.5	2.44
11	20.3	24.7	10.1	5.7	8.1	6.7	1.72
12	22.9	24.7	10.1	6.0	8.4	7.2	1.90
13	20.1	23.8	9.7	6.1	8.5	7.0	1.46
14	24.9	24.5	8.7	5.7	8.7	6.8	2.50
15	23.0	23.8	9.5	6.1	8.3	6.6	1.85
16	25.5	24.3	10.6	5.5	7.9	6.0	1.98
17	24.7	25.4	11.1	5.6	8.4	6.5	2.08
18	21.5	24.5	8.2	6.5	8.3	8.3	2.10
19	23.3	24.5	8.8	6.5	8.1	7.1	2.60

※小花が咲いた時点で生育調査。1区10株2連の平均

表4 わい化剤^aの施用効果

品種番号	草丈(cm)	株張(cm)	最大節間長(cm)	無処理に対する割合		
				草丈(%)	株張(%)	最大節間長(%)
1	17.5	20.1	0.99	95.0	89.0	63.7
2	16.9	20.0	0.93	103.2	90.0	97.4
3	21.6	20.9	1.42	88.9	84.7	61.2
4	23.2	24.6	1.81	86.2	91.4	66.7
5	27.1	25.2	2.25	98.0	94.8	84.3
6	23.7	23.1	1.99	87.7	90.2	76.1
7	23.5	24.8	1.86	89.6	93.9	76.7
8	21.0	22.7	1.94	85.2	91.5	63.2
9	23.7	24.6	1.68	94.4	97.3	68.0
10	22.0	23.0	2.04	92.1	86.3	83.8
11	17.9	21.8	1.28	88.2	88.1	74.6
12	21.1	22.5	1.45	92.1	90.9	76.3
13	19.5	21.2	1.10	96.8	89.3	75.6
14	24.1	23.0	1.89	96.7	93.7	75.8
15	21.4	21.6	1.32	92.8	90.7	71.4
16	23.7	22.5	1.55	93.1	92.6	78.3
17	22.9	22.8	1.52	92.7	90.0	73.3
18	21.4	22.7	1.84	99.4	92.6	87.6
19	21.8	21.7	1.73	93.4	88.5	66.7

a) ウニコナゾールP液剤を本葉2～4枚時12.5ppm散布

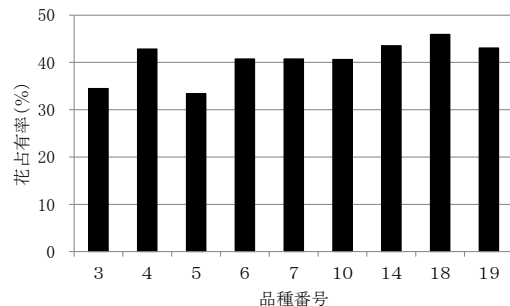


図1 秋季の赤系品種の花占有率

※上方から撮影した画像(2012/10/23)をImageNosソフトで2値化後(R値188-255), Lia32ソフトでR成分比率算出。5/29に株間20cm, 4条, 5列植え